

# 個別施設計画

策定年月 R3.1

施設名	倉敷まきび支援学校			所在地	倉敷市真備町箭田4682-1		
敷地面積	29,670.00 m <sup>2</sup>			棟数	21 棟 (計画記載対象 10 棟)		
延床面積	13,126.06 m <sup>2</sup>				※対象は200m <sup>2</sup> 以上の建物(車庫、倉庫等は500m <sup>2</sup> 以上) ※公舎・寮は全て対象		
設置目的	特別支援学校教育のため						
<b>【想定される自然災害】</b>							
予想震度 6弱		津波 -		浸水 5.0m以上			
建築規制	市街化調整区域 建ぺい率60%、容積率100%						
エネルギー使用量 (2019年度)	電気	ガス	水道	燃料 ( - )			
	402,943 kWh	3,695 m <sup>3</sup>	4,900 m <sup>3</sup>	- 0			
管理上の 特記事項	敷地内未利用地 なし 敷地内貸付地 なし 倉敷市指定緊急避難場所・指定避難所(土砂災害・高潮・地震・津波)						

## 1 施設内建物の概況

名 称	管理・特別教室棟(1棟)1	普通教室棟(2棟)2	普通教室棟(3棟)3
築年(西暦)	2014 年		2014 年
構 造	鉄筋コンクリート造 2 階		鉄筋コンクリート造 2 階
建築面積	1536.97 m <sup>2</sup>		1474.15 m <sup>2</sup>
延床面積	3311.03 m <sup>2</sup>		2960.30 m <sup>2</sup>
主要な用途 (室名等)	事務室 音楽室 職員室		普通教室 プレイルーム
主要な設備 (屋外を含む)	空調設備 給排水設備 昇降機		電力設備 空調設備 給排水設備 消火設備 昇降機
利用状況	高		高
耐震性 ※1	有		有
躯体(コンクリート) の健全性 <small>※耐震診断済のみ</small>	圧縮強度 ※2	適	
	中性化 ※3	適	
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	
	地盤沈下 ※5	適	
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし		該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値≥0.6(震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm2未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜がある場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名称	体育館棟(11棟)4-1	食品加工実習棟(4棟)4-2	水治訓練厨房棟(5棟)5
築年(西暦)	2014年	2014年	2014年
構造	木造 1階	鉄筋コンクリート造 1階	鉄筋コンクリート造 1階
建築面積	835.24 m <sup>2</sup>	253.26 m <sup>2</sup>	639.25 m <sup>2</sup>
延床面積	835.24 m <sup>2</sup>	253.26 m <sup>2</sup>	639.25 m <sup>2</sup>
主要な用途 (室名等)	体育館	食品実習室	水治訓練室 調理室
主要な設備 (屋外を含む)	電力設備 消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 給排水設備	電力設備 空調設備 給排水設備	電力設備 空調設備 給排水設備 消火設備
利用状況	高	高	高
耐震性 ※1	有	有	有
躯体(コンクリート) の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2		
	中性化 ※3		
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果 $I_s$ 値 $\geq 0.6$ (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm<sup>2</sup>未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名称	多目的教室棟(6棟)6	宿泊訓練棟(7棟)7	就労支援棟(8棟)8
築年(西暦)	2014年	2014年	2014年
構造	木造1階	木造2階	木造1階
建築面積	560.47 m <sup>2</sup>	204.20 m <sup>2</sup>	542.45 m <sup>2</sup>
延床面積	560.47 m <sup>2</sup>	408.40 m <sup>2</sup>	542.45 m <sup>2</sup>
主要な用途 (室名等)	多目的教室	食堂 居室	木工室 実習室
主要な設備 (屋外を含む)	電力設備 空調設備 給排水設備 消火設備	電力設備 消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 給排水設備 消火設備	電力設備 消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 給排水設備 消火設備
利用状況	高	高	高
耐震性 ※1	有	有	有
躯体(コンクリート) の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2		
	中性化 ※3		
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 $\geq$ 0.6(震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm<sup>2</sup>未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名 称	バス昇降場(18棟)	
築年(西暦)	2014 年	
構 造	鉄骨 造 1 階	
建築面積	350.70 m <sup>2</sup>	
延床面積	350.70 m <sup>2</sup>	
主要な用途 (室名等)	バス昇降場	
主要な設備 (屋外を含む)	電力設備 消防設備(自動火災報知設備)	
利用状況	高	
耐震性 ※1	有	
躯体(コンクリート) の健全性 <small>※耐震診断済のみ</small>	圧縮強度 ※2	
	中性化 ※3	
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適
	地盤沈下 ※5	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 $\geq 0.6$ (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm<sup>2</sup>未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

## 2. 対応方針

### (1) 施設全体の方針

予防保全を図りながら、使用を継続する。

### (2) 建物ごとの方針

区分	対応方針
管理・特別教室棟(1棟)1	予防保全を図る。
普通教室棟(2棟)2	予防保全を図る。
普通教室棟(3棟)3	予防保全を図る。
体育館棟(11棟)4-1	予防保全を図る。
食品加工実習棟(4棟)4-2	予防保全を図る。
水治訓練厨房棟(5棟)5	予防保全を図る。
多目的教室棟(6棟)6	予防保全を図る。
宿泊訓練棟(7棟)7	予防保全を図る。
就労支援棟(8棟)8	予防保全を図る。
バス昇降場(18棟)	予防保全を図る。

### 3. 施設全体のスケジュール

#### (概要)

予防保全を図る。

(単位:億円)

区分	対応方針	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
管理・特別教室棟(1棟)1	予防保全				予防保全を図る。						
普通教室棟(2棟)2	予防保全				予防保全を図る。						
普通教室棟(3棟)3	予防保全				予防保全を図る。						
体育館棟(11棟)4-1	予防保全				予防保全を図る。						
食品加工実習棟(4棟)4-2	予防保全				予防保全を図る。						
水治訓練厨房棟(5棟)5	予防保全				予防保全を図る。						
多目的教室棟(6棟)6	予防保全				予防保全を図る。						
宿泊訓練棟(7棟)7	予防保全				予防保全を図る。						
就労支援棟(8棟)8	予防保全				予防保全を図る。						
バス昇降場(18棟)	予防保全				予防保全を図る。						

#### 4. 概算費用

--